

令和5年度 自己評価計画書における中間報告

石川県立内灘高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	7月集計結果	分析と課題	備考（時期・対象）	
分かる授業の実践と家庭学習時間確保 GIGAスクール構想の一人一台端末を活用し、生徒の学ぶ意欲を高め、基礎学力の向上を図り、進路実現につなげる。	①	授業や朝学習等において、ChromeBookやiPad等を用いて、Google for Education等の機能を効果的に活用し、家庭学習のあり方を再構築し、基礎学力を向上させる。生徒の個別最適な学びを踏まえ、協働的な学びを追求する。その結果進学、就職といった進路の実現につなげる。	【満足度指標】 授業等においてChromeBookやiPad等の情報機器が効果的に活用され、学習意欲の喚起につながっている。	「授業等において情報機器が効果的に活用されて学習意欲が高まった」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (88.1%)	1人1台端末が実現し、生徒は放課後も含め、自由にタブレット端末で自学に励むことができています。さらに、朝のタイピング練習や内灘ベーシックを通じて、個に応じた学習が実現し、生徒が意欲的に取り組む様子が見られる。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	②		【満足度指標】 学力向上のために、授業の目標やねらいを明確にして、内容の説明や教材が工夫されており分かる授業が展開されている。	「授業の説明や教材が工夫されており、分かりやすい授業である」と回答する生徒の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A評価 (94.1%)	各教員が創意工夫を施して授業を行っている。今後も、ねらいや見通しを提示した上で、わかりやすい授業を展開できるようにしていく。また、ICT端末を利用した授業実践もすすめていく。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	③		【努力指標】 生徒がICT機器を家庭学習に活用している。	「放課後や家庭において、ICT機器(Chromebook・iPad・各自携帯端末)を家庭学習に利用している」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A評価 (72.1%)	72.1%の生徒が授業以外の場面でICT機器を利用して学習に取り組んでおり、彼らの慣れ親しんでいるICT機器が家庭学習の一助になっていることがわかる。紙や冊子媒体の課題よりも、自分たちの機器で、課題をネット上でワンクリックで提出できるなどのICT機器が取り組みを容易にしていると考えます。	授業アンケート (7月、12月／生徒対象)
	④		【努力指標】 生徒個々の学習状況の把握や学力定着を図るために適切な質・量の課題を課することができる。	「生徒個々の学習状況を把握し、学力定着を図る課題を課している」と回答する教員の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	C評価 (61.1%)	学習習慣向上につなげる日々の課題設定や小テストの実施に苦心している状況である。ただ、生徒の感覚としては自身の学習状況を把握し、課題や小テストは実施されていると多く感じている。端末を用いた課題研究や課題・小テストなど、これからも授業を工夫して本校の生徒にあった改善を図っていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
	⑤		【成果指標】 進路ガイダンスや進路講話等を利用して、1年、2年における進学又は就職の希望未定者を抑制する。	「進路未定者の割合を1年は10%以下、2年は5%以下とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	C評価	進路希望未定者は2年48名中3名(6%)である。1年生については9月に調査実施予定である。進路行事や探究活動を通して、事故の在り方・生き方について考えさせ志望を持たせるよう指導していきたい。	進路志望調査 (5月、9月、1月／生徒対象)
	⑥		【成果指標】 個に応じた進路指導を行い、4年制大学進学者5名以上、就職希望者の就職決定率100%を達成する。	「4年制大学進学者5名以上、就職希望者の就職決定率100%とする」ことについて A いずれの目標も達成できた B 片方の目標を達成できた C どちらの目標も達成できなかった	—		進路実績

重点目標	具体的取組	評価の観点	実施状況の達成度判断基準		備考（時期・対象）		
2	挨拶や人間関係づくりなどに留意した生徒指導と教育相談の実践 生徒の基本的生活習慣の確立を図り、規範意識を高めるとともに、18歳成人に向けて、自分の個性や適性を考え、自分の将来を決定する力を育む。	① 普段の挨拶や学校での人間関係の構築に向け、具体的な態度を掲げることで生徒指導の指針とする。また学習以外の用途でのスマートフォン等使用時間について、生徒に主体的に考えさせ、望ましい人間関係を構築する。	【満足度指標】 生徒がいじめのない安心できる学校生活を送ることができる。	「学校はいじめに対しての取組や指導をしっかり行っている」と回答する生徒の割合が A 90%以上 B 80%～89% C 70%～79% D 70%未満	A 評価 (91.7%)	本校生徒がいじめに対する指導について91.7%が行われていると回答してくれた（学校管理計画評価A）。担任を中心に教員間のアンテナをしっかりと立てて、情報交換等しっかり行えた結果であると考えられる。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)
		②	【努力目標】 家庭において、スマートフォン等の使用ルールについて話し合う機会を作る。	「家庭において、スマートフォン等の使用ルールについて話し合いを行った」と回答する保護者の割合が A 60%以上 B 50%～59% C 40%～49% D 40%未満	B 評価 (58.7%)	スマホ使用ルールについて、58.7%がルールを決めていると回答があった（学校管理計画評価B）。家庭と学校が連携し、誹謗中傷、犯罪サイトからの防衛等、加害者や被害者にならないよう協力して取り組んでいきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／保護者対象)
		③	【努力指標】 課題探究を将来につなげるテーマとしてとらえている。	課題探究について「自分の将来につなげるテーマを考えた」とする生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	—		学校評価アンケート (12月／生徒対象)
		④	【満足度指標】 生徒は本校に進学して良かった、保護者は進学させて良かったという満足度が一層向上している。	「本校に進学して（させて）良かった」と回答する生徒・保護者の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 生徒91.6% 保護者97.8%	昨年度（昨年同期生徒：A+B=88%、昨年同期保護者：A+B=94.3%）同様、肯定的な回答をした生徒・保護者の割合が非常に高い。生徒一人ひとりに寄り添いながら生徒の自己肯定感や自己有用感を高める指導を行っていることが反映されているものと思われる。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒・保護者対象)
3	外部との連携と社会参画意識の醸成 同窓会や地域との連携や情報発信に努め、地域から信頼され必要とされる学校を目指す。	① 積極的な情報の発信と収集に努め、進学や就職した卒業生や地域の教育資源等を利活用して、生徒の社会参画意識を高める。	【努力目標】 同窓会や地域との連携に基づくイベントや行事を通して、生徒が地域に目を向け、社会参画意識を高める。	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答する生徒の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A 評価 (80.9%)	「同窓会や地域との連携を実感した」と回答した生徒の割合が非常に高かった。今後も3年生対象の就職模擬面接や9月に実施する1・2年生対象の社会人講話（同窓生24名）で同窓生に協力していただき、生徒の社会参画の意識を高めていきたい。	学校評価アンケート (7月、12月／生徒対象)
		②	【努力指標】 ホームページの一層の充実等により学校の取組についての情報発信を行う。	「情報発信が効果的にされており、学校の教育活動が理解できる」と回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%～79% C 60%～69% D 60%未満	A 評価 (93.4%)	学校の取り組みについてその都度、ホームページ・内灘高だより・学年だより等により情報発信しており、学校の教育活動が概ね理解できると回答する保護者の割合が非常に高い。本校を地域に広く理解していただくために今後も学校の取り組みについて、タイムリーに情報発信していく。	学校評価アンケート (7月、12月／保護者対象)
4	教職員の多忙化改善 「働き方改革」と「働きがい改革」の両輪をまわしながら、教育効果の質を高める。	① 教員自らが働き方を見直し、担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につなげる。	【成果指標】 各自が効率よく業務分担を図り、時間外勤務の縮減に努める。	「担当業務においてタイムマネジメント意識を高め、効率的な業務と協力体制の構築により、時間外勤務の縮減につながった」と回答する教員の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A 評価 (89.4%)	肯定的な回答をした教職員の割合が高い。各自、時間外勤務の削減に向け計画的に業務に取り組んでいる。	学校評価アンケート (7月、12月／教員対象)
		②	【努力指標】 各課主任や学年主任が担当課において、業務の効率化に積極的に取り組んでいる。	「業務の割り振りや効率化を図ることについて積極的に取り組んでいる」と回答する主任の割合が A 70%以上 B 60%～69% C 50%～59% D 50%未満	A 評価 (100%)	各課・学年において今後も業務の標準化に努める必要がある。教職員間の情報交換を欠かさず業務の効率化に努めたい。	学校評価アンケート (7月、12月／主任教員対象)